吹田市立博物館の使命・目標・中長期計画、

点検、評価について（答申）

21 世紀の博物館像

－吹田市立博物館中長期計画－

平成22年5月26日

吹田市立博物館協議会

目　次

1　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　使命　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

3　目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

4　中長期計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

5　点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

6　諮問案件の討議経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

7　博物館協議会委員構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・7

中長期計画一覧表　　別紙

21世紀の博物館像

－吹田市立博物館中長期計画－

１　はじめに

吹田市立博物館は地域の歴史を学び、地域の文化財を守る本格的な専用施設として、市制 50 周年記念事業として、平成 4 年（1992）11 月に開館した。以後、さまざまな展示・教育活動を通じて、府下における本格的な市立地域歴史博物館のひとつとして、一定の役割を果たしてきた。

当館が開館した当時は花博が開催された 2 年後でもあり、表面的にはまだまだ安定した様相を呈していたが、やがて、バブル経済の破綻が国・地方の財政を圧迫し、世情は急激に変化を見せ始める。文化庁統計では平成 8 年をピークにして、全国博物館の総入館者数は戦後初めて減に転じ、数字の上でもはっきりと後退現象が現れたのであった。

博物館の世界に限ったことではないが、公的な行財政力の後退が著しいなか、それと同時に、公共サービスに対する、住民の厳しい視線が向けられ始める。このような傾向は、地域の教育・文化を担う末端の現場にも現れ、平成 10 年（1998）9 月、国の生涯学習審議会答申は、「現在の社会教育行政は社会の変化に対応していない」とした上で、「公立博物館の旧来の設置基準が現状に合致していない部分がある」として見直しを求めた。

これを受けて、博物館界においても現在社会における博物館のありかたに関して議論が開始される。（財）日本博物館協会は文部省（現文部科学省）委託事業として行った調査研究委員会報告書として『「対話と連携」の博物館―理解への対話・行動への連携－』（2000）を発表、博物館のあり方に一石を投じたが、それは「市民とともに創る博物館」と副題が付けられたとおり、市民とともに歩まなければ博物館の将来は立ち行かないことを明言したのであった。

当博物館は平成 14 年（2002）９月、「博物館を考える市民会議」を立ちあげ、公募市民による 1 年間の論議を重ね、翌年 8 月に『吹田市立博物館の活性化について（提言）』をまとめた。この提言を受けて、市立博物館協議会は、「博物館の活性化についての諮問」に答える形で、平成 16 年（2004）3 月、『博物館の活性化について（答申）』をまとめた。

この「提言」と「答申」は、博物館の将来のあり方を方向付けるものであり、近年、当博物館は市民との連携、学校教育との連携、地域との連携の「三つの連携」について取り組んできた。

「答申」と「提言」によってあらかたの方向性が決まり、一応の鉄路は敷かれたものの、どこに市民が利用するための「駅」があり、市民が乗るための列車がいつ来て、目的地にいつ到着するかの「時刻表」がないのが現状である。この駅と時刻表を作る作業が、これから記す「吹田市立博物館中長期計画」である。

近年、当博物館は新しい試みに取り組んできたが、しかしこの新たな動きは制度やシステムに裏付けられたものでなく、その方法・時期・事業規模等において、まだまだ試行錯誤の域をでるものではなかった。最適なテーマで、最適な方法で、より効果的に、市民の学習活動を支援するには、これらの経験を踏まえて、これからの具体的なルール作りが必要である。この長中期計画の策定は、将来にむけての博物館の動きを縦軸に、市民との関係を横軸にして、編み上げられた丈夫な網でなければならない。

以下に述べる中長期計画とその評価システムが本博物館のもつ性格を充分に表現し、それによって館運用のための適切な羅針盤となることを強く望むものである。

２　使命

現在、社会や市民ニーズの変化の中で博物館活動に対して市民参画、学校教育支援、社会貢献等の新たな取り組みが求められている。また、財政状況の悪化による運営予算の削減、事業評価、運営の見直しも進められている。つまり、地域博物館においては博物館が地域社会の中でどのような役割を果たすべきか、博物館は何のために存在しているのかという社会的使命を明確にし、市民や利用者に向けてわかりやすく積極的に示す必要がある。

吹田市立博物館は開館時から基本的機能である実物資料を中心とした資料の収集保管、調査研究、公開展示活動を行ってきた。そのために専門性をもった学芸員を配置し、市内の歴史等に関する美術工芸品、古文書、考古資料、民俗資料等を取り扱ってきた。この基本的機能は大きく変わるものではない。したがって、ここでは基本的機能に加え、社会の変化に対応した新たな博物館運営の理念および果たすべき役割を盛り込んでいくことにする。

物質的な豊かさはもとより精神的・文化的な充足を求められる今日、市民の学習や文化活動に対する関心はより高まっている。市民が博物館を身近な存在と感じ、主体的に博物館活動に参加することでき､市民生活を潤いのある豊かなものにすることができる。知的交流をなすことにより地域社会のコミュニケーションも形成される。博物館は地域が歩んできた歴史文化にふれ、くらしや地域の特徴をつかみ、その魅力を発見するところである。その情報により市民が現在の地域のくらしを見直すきっかけを作ったり、まちづくりや市民生活に活かし、地域創造に役立てることができる。

このような博物館の今後あるべき運営理念を考慮して使命を以下の２項目とする。

①地域の文化を継承し、発信拠点となること

地域の文化に関する歴史資料等を調査研究し、市民の共有財産として次世代に継承します。このような情報を展示、普及活動等により発信することで市民の生涯学習活動を支援し、地域の文化を発見、見直し、創造していきます。

②市民が参加し、市民文化の向上に寄与すること

市民の視点に立ち、市民が集い、多様な体験を活かしながら博物館活動へ主体的に参加できる博物館とします。また、ボランティアをはじめとする博物館サポーターにより、学校教育や地域住民等との連携を深め市民生活を豊かな潤いのあるものにします。

３　目標

博物館の長期目標とは、博物館の使命でもあり、すべての活動はこの実現のために実施されるべきものである。この長期的目標達成のために博物館がめざす活動目標を次の９分野に定める。

①資料の収集と保管

吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化を保護し、継続的に資料を収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。

そのために大切な資料を良好な状態で保管する収蔵庫も確保します。

②調査研究

地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、新たな価値を発見、創造し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。また、そのために専門性を持った学芸員を確保し、研究テーマ、研究体制を常に地域と時代のニーズにあわせて見直していきます。

③展示

地域の歴史と文化をテーマとした常設展示を公開し、また、新収蔵品を適宜展示するなどして市民に対して知的情報を迅速に公開します。また、社会のニーズにあった企画展を開催し、市民の多様な学習活動に応じるとともに、資料の活用を通じた新たな価値の創造を支えていきます。また、大人から子どもまで幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる魅力的な展示をめざします。

④地域学習の拠点

市民の多様な自主的学習を支援するため、調査研究の成果を分かち合い、その活動を通じて市民が地域の文化の新しい価値を発見、創造できる生涯学習の拠点とします。

また、市域全域をフィールドと考え、地域性をもつ歴史、生活文化の遺産や自然環境に関する情報を発信するサテライトを配し、博物館は地域の文化の情報拠点であるコアの役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携をはかります。

⑤市民参画

市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を事業運営に反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのために、博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。

⑥情報発信

博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する諸資料や博物館運営に関する豊富な情報を迅速に発信公開します。また、情報量の増大と速度の向上など広報の強化につとめ、博物館を身近かなくらしに役立つ存在としてＰＲしていきます。

⑦学校教育との連携と支援。

学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と幅広い連携によってカリキュラムに応じた利用プログラムを開発していきます。また、子どもたちが博物館に親しむ機会を増大し、博物館ならではの実物に触れて学習できる機会を提供します。

⑧社会貢献

博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。

⑨施設の整備・維持管理

館内の設備の維持管理、整備に努め、ユニバーサル・デザインの考え方に立って利用者が来館しやすい環境を整えます。

４　中長期計画

中長期計画は使命・目標を達成するために平成 22 年度から中期計画で５年、長期計画では１０年の間に実施する事業計画である。

計画では、目標に定めた９分野ごとに指標となる項目を設定し、現状と課題を明記したうえで項目ごとに課題を解決し、目標を達成するための事業を設定している。事業は年次計画に基づき実施され、事業ごとの到達点、達成度をはかるべく中長期計画各々に点検の項目を付し表形式でまとめた。（別紙中長期計画一覧表参照）

なお、使命を受けて重点的に取り組むべき課題に資料の保管と市民参画を指摘しておく。資料の保管は博物館のあらゆる活動の基本となる問題であり、その活動を妨げる要因となる収蔵庫不足を解消するべく収蔵スペースの増設が必要である。市民参画については今後地域博物館活動においてさらに重要度を増す問題である。

５　点検・評価

平成２０年６月の博物館法の改正では「博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と明記された。

これからの博物館は使命・目標を実現するべく計画された中長期計画についてその計画の達成、成果を点検し、評価して運営の改善に努めるべきである。

そのために誰が何を点検し、評価するのか。その視点、評価のスパンなどの方法や評価の基準設定が重要となってくる。評価の対象は広範で多元的であり、客観的で改善につながる視点をもつべきである。

評価者については、博物館の運営や将来計画に関する点検、評価であることから、博物館関係者が実施するべきである。また、利用者の要望や意見、社会的な要請を博物館運営に反映させ、次へのステップとして改善に取り組むことが必要であり、その評価への加わり方を検討する必要がある。

外部評価については、モニター制度の導入であったり、まず自己点検、内部評価を着実に実施してからその評価の客観性を保つために、評価の公表の方法も含めて内部評価の点検を博物館関係者などにアドバイザーとして依頼する方法があげられる。

外部評価や市民の評価をどのような仕組みで行うかという検討を行い、博物館の実態を正確に評価できる第三者による評価制度の導入を長期的な取り組みとして考えていくべきである。

点検・評価にあたっては、各年度ごとに目標を設定した具体的な活動実績について評価基準に基づき、自己点検を行う。その達成状況について博物館協議会に報告を行い、評価を受ける。さらに中期、長期のスパンにおいても内部評価を行う。評価基準は数値目標の設定や数値の評価がなじまないものは定性的な目標とし、評価はＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄなどの段階的評価とする。

なお、利用者の意見を取り組む方法としてアンケートは重要であり、アンケート結果の活用は大きな自己評価である。利用者の充足度が目に見える形でわかるアンケートの手法を検討することも重要で、アンケート結果を集約する以前にアンケート法を研究することも必要である。

諮問案件の討議経過

会　議　名	開催年月日	討　議　内　容
平成18年度 第２回博物館協議会	平成18年（2006） 11月28日	・吹田市立博物館の使命・目標・中長期計画・点検・評価　について諮問 ・諮問に至る博物館界をとりまく現状説明 ・作業部会にあたる博物館協議会小委員会の設置について
平成19年度 第１回博物館協議会	平成19年(2007) ５月23日	・討議計画について ・諮問の枠組み及び使命について
平成19年度 第２回博物館協議会	平成19年(2007) 10月24日	・討議内容の要件について ・諮問の枠組みと検討要件について
第１回博物館協議会 小委員会	平成20年(2008) ３月27日	・答申全体について自由に討議 ・考古、文献、美術、民俗の各分野における現状と課題について
平成20年度 第１回博物館協議会	平成20年(2008) ６月11日	・第１回博物館協議会小委員会報告と討議
第２回博物館協議会 小委員会	平成20年(2008) ７月30日	・資料の収集と保存（データベース・収蔵庫）、活用、調査研究、公開展示に関する中長期計画について
第３回博物館協議会 小委員会	平成20年(2008) 10月１日	・中長期計画の項目（10分野）と年次計画について ・資料の収集保存（収蔵庫）・活用、調査研究、公開展示、学校教育との連携、市民参画、社会貢献に関する中長期計画について
平成20年度 第２回博物館協議会	平成20年(2008) 11月26日	・第２、３回博物館協議会小委員会の報告と討議
第４回博物館協議会 小委員会	平成21年(2009) ３月26日	・使命・目標・点検・評価（内部評価と外部評価、アンケートの効用）について ・収蔵庫、展示、学校教育との連携に関する中長期計画について
平成21年度 第１回博物館協議会	平成21年(2009) ７月１日	・第４回博物館協議会小委員会の報告と討議
第５回博物館協議会 小委員会	平成21年(2009) 10月16日	・使命・目標について ・資料の収集保管、調査研究、公開展示、地域学習の拠点、市民参画、情報発信、学校教育との連携、施設の整備維持に関する中長期計画について
平成21年度 第２回博物館協議会	平成21年(2009) 12月４日	・第５回博物館協議会小委員会の報告と討議
第６回博物館協議会 小委員会	平成22年(2010) ３月28日	・小委員会答申最終案　検討
平成22年度 第１回博物館協議会	平成22年(2010) ５月７日	・答申案　検討

博物館協議会委員構成

氏　名	区　分	備　考
秋元　　宏	公募	○
大久保昭洋	公募	
岡田真由美	社会教育関係者	
奥野義雄	学識経験者	○
金地広子	社会教育関係者	
上坂純朗	学校教育関係者	○
小長谷有紀	学識経験者	○
佐々洋一	学識経験者	
島村敏生	学校教育関係者	○
瀧川紀征	社会教育関係者	
田中敏雄	学識経験者	
豊田 旭	学識経験者	
野谷欣一	学識経験者	
平田万二	公募	
菱田哲郎	学識経験者	○
松田 健	公募	
松本 仁	学校教育関係者	
宮嶋恵美	社会教育関係者	
森 史郎	学校教育関係者	○
藪田 貫	学識経験者	
山崎千恵深	社会教育関係者	
由谷雅彦	社会教育関係者	

○印は小委員会委員